

## 2021年度 第1回ESDティーチャーフォローアップ研修 概要報告

奈良教育大学 中澤静男

- ◇開催日時 2021年6月7日(月) 19時～21時30分
- ◇方法 ZOOMを用いたオンライン研修
- ◇参加者 吉田(附属中学校)、高倉(大牟田市教委)、阿部(山形大学附属特別支援学校)、  
島(大牟田市立吉野小)、圓山(奈良市立伏見小)、西尾(四日市市立橋北中)、  
鈴木(五井平和財団)、竹田(橿原市立金橋小)、河野(大分大)、永田(滋賀大附属中)  
中澤哲(平群町立平群北小)、中澤敦(近畿地方ESD活動支援センター)  
大西・中澤(奈良教育大学) 計14名

◇内容 ESD実践報告から学ぶ

### 1. わたしたちの暮らしを支える政治(島先生)

コロナ対策と経済対策のジレンマ

感染拡大防止の取組と経済支援の取組

地方公共団体の役割とその取組

緊急事態宣言の延長に対する意見 ESDの視点による価値判断・意思決定場面

3回の価値判断・意思決定場面の設定: 政策に「納得できる」「納得できない」

多角的な視点の獲得

経済・命・健康の両立について話し合う。

#### 【協議事項】

①県・市の取組をふまえた振り返りがあるとよいのでは。

→ 個別な改善意見に終始してしまった。中学校公民的分野との接続も考え、「幸福・正義・公正」の視点で政策を評価する場面を繰り返すことで、社会事象に関心の高い児童が育つのではないか。

②単元の目標を意識した授業の展開がよい。目標を意識していれば、少々脱線してもよいだろう。

政治が自分たちの生活とつながっていることをおさえられていたのがよかった。

コロナの問題は色々ありすぎる。絞り込んだ方が深まるのではないか。

授業展開のポイントポイントで児童の考えが変化していくことを客観的にとらえる場面があったのがよい。

③話し合いを深めるためには、焦点化した方がいい。「コロナによる差別について」など。子どもにとってわかりやすいテーマを設定した方がよいのでは。

コロナでダメージを受けている子への配慮は? → 色々な立場の人のことも考えることができるように、あえて経済の問題も入れていた。多角的な視点の育成に効果があった。

④当事者へのインタビューなどがあれば、深い学び・自分事化に発展できるのでは。

学習のゴールはどこに設定すべきか? 社会科の目標 ESDとして経済と社会の調和

ホットで答えのない問いを授業化することが素晴らしい。すべての児童が参加しやすかったのでは。

※飲食店から他にも困っている人達がいることに気づいていく学びがあるといい。

→ 政治の役割を学ぶことにつながるのでは。

自分たちが支援できることを考える学習に発展できるのでは。

### 2. 地域の人とつながり県産材を通して山形の森林を元気にしよう(阿部先生)

これまではカナダ産の外材(SPF材)を利用していた→県産材の使用へ

地域の人とつながった学習 材木店の方、県の森林整備課の方、幼稚園児（バザー）  
探究的な学習を意識した。アンケートに県産材に関する内容をしのばせた。「県産材って何？」

「県産材を使うとどんないいことがあるのかな？」◇電話をしてみよう 森林ノミクス

材木店の見学 授業の後ろで教員と地域の人との詳細な打ち合わせがあった

→「箸がつくれるよ」

- ・自分たちから材木店に電話をかけ、箸の製作につなげる。買い手を意識した製作（長さ・デザイン）
- ・「県産材を使うことで地元の人が喜ぶ」は具体的で理解しやすいが、地球環境が喜ぶことについては、理解が難しい←教師による支援 長距離を運ぶことのマイナスを教員の自動車の排気ガスで実感

生徒が自分の言葉で自らの学びを報告し、森林整備課の方に評価してもらう

県産材だけでなく、SPF材を使用するよさについても考えることができるようにしたい

幼稚園に以前販売した製品のメンテナンスもしている → 大切に長く使う

生徒の変容

「みんなが喜ぶ」のみんなについて：製品の購入者だけでなく、木を育てたり、伐ったりする林業家  
にも視野が広がった

生徒が自分から電話をするなど、積極性につながった。

#### 【協議事項】

①地域の人の喜ぶ顔が直接見える実践であったのがよかった。

「県産材」：論理的思考に注視しがちだが、五感で伝えていく、言語化だけでない伝え方（作品を通して）もあるのがよかった。

②水面下の教員の取り組み方がよかった。外部人材の言葉だけではわかりにくいところを教員がフォローしているのがよかった。

③子どもの考えが学習を進めているのがよかった（教員の柔軟性が表れた取組だ）

木材の特徴を捉えて、適材適所の木材の使い方へと進んでいくとSPF材のよさが捉えることができるのではないかと。

④子ども主体の取組になっていた。

外部人材に協力をお願いするというハードルが低くなった。

※想定外のよかった学び：生徒が進んで電話をかけることができるように変わっていったこと

子どもの内面を見取ることを大切にしている。ちょっとした言葉や態度から子どもの考えていることをつかむようにしていた。



次回は7月30日（金）19時から開催  
します。平群北小学校の中澤哲先生が  
実践報告していただきます。